

意見要旨	区の考え方
公園整備に関して、「設計段階から区民参加」とあるが、宅地開発事業の際に民間事業者が設計整備する公園の場合、住民はどのように参画できるか。	開発事業の計画段階からどのような公園がいいか、必ず区の公園管理部署と開発事業者が打合せした上で、公園整備を進めています。
街路樹の多様性について、以前意見が出ているが、区はどのように進めるのか。	道路の幅員に合わせた植栽モデルを作るなどして緑化を進めていきますが、モデルにあわせ画一的に整備をするということではなく、近隣の意見もふまえ整備することを追記しています。
生き物に配慮した樹林地の管理の項に、区民管理の促進とあるが、ハクビシンなどの問題もある。生き物に関しても、区がやること、住民と協働でやっていくことがあるはずなので、「憩いの森の区民管理を促進」という一言でまとめてしまうと、違和感がある。	区民生活に被害が及ぶ場合は区で対応を図っています。憩いの森の区民管理については、区民管理によって、森の特性にあわせ在来種や希少種の保全の取組が進められていることから記載しているものです。主旨がわかるように表現を見直します。
大泉高校には大木が点在しており、木陰がラジオ体操にちょうどよく、地域の住民の多くが樹木の価値を認識している。保護樹木に指定され、それを周知することで、地域のみどりとして親しむ意識づけになるのではないかな。	保護樹木の指定は、樹木の保全に加え、近隣の方にみどりを知ってもらおうきっかけとしても有意義なものと考えます。保護樹木の価値を広く周知することについて、方向性に追記します。
農業振興に力を入れていかないと、農地の保全は難しい。区はどのくらい重要視しているのか。	練馬区にとってみどりの保全は重要な取組であり、農地もみどりの要素として重要です。農地の保全については、いかに農業経営の力をあげていただくかが重要と考え、これまでも多くの取組を進めてきました。今後も農地の保全に向け取組を進めていきます。
緑化助成制度を使おうとしたが、手続きが煩雑でやめたという人がいた。手続きの労力が大きい。もう少し改善できないか。	現在、インターネットによる申請の検討をしています。今後もわかりやすく、簡便な手続きとなるよう工夫をしていきます。
宅地の樹木が減っているということは重要視すべきことで、施策の見直しは重要である。施策の認知度が低いのもボトルネックになっているのではないかな。地域ぐるみの緑化をどのように進めていくのか。	緑化助成等の周知をしているが、緑化に対して関心が向いていない区民も多いのではないかと考えています。今後は、緑化に向けてどのような課題があるのか、地域の状況や課題も異なることから、地域へのヒアリングを行いながら、地域と一緒に検討していく必要があると考えています。
小学生だけではなく、幼児や親子が土や農に親しめる環境を作ることを検討してほしい。	子どもの頃からみどりを育む活動へ参加することは非常に重要だと考えています。幼児から中高生まで、気軽に参加できる体験や活動の充実について、方向性について追記します。なお、学校での活動に関しては、関係部署と連携して取組について検討を進めます。
子どもを対象とした具体的な記載が農業体験しかない。例示の対象をもう少し範囲を広げてもいいのではないかな。また、実際に取り組む際には、学校ボランティアの募集などを活用し、地域の方に協力してもらおうとよいのではないかな。	
小学生だけではなく、中高生にも活動してもらおう施策を入れるべきだ。例えば、学校を超えた部活動のような活動として駅前の花壇づくりなどをできるとよい。	
みどりの区民会議はどのような状況なのか。	現在は、実際に活動している団体同士の交流の場や活動に取り組む団体や個人の意見を区が聞く場を設けて、施策の向上につなげています。地域ぐるみの緑化を広げるにあたって、横断的な交流についても検討をしていきます。
地域で様々な活動があるので、そうした取組が複合的につながることが大事と考える。横断的に交流できることが大事なので、そうした交流を充実してほしい。	
みどりの活動にもお金がかかるので、区税だけでは難しい。ふるさと納税を活用したらどうか。	葉っぱい基金で広く寄付をいただいています。葉っぱい基金をリニューアルしたことで、大幅に寄付件数が増加しています。今後は、区民協働事業を用途とするプロジェクトについても検討をします。
四季の香ローズガーデンは光が丘、農の風景は高松などで、西武池袋線の南側の地域では、体験ができる場所や講座の開催が少ない。	講座や体験事業の開催にあたっては、なるべく広く区民に参加いただけるよう、様々な施設で展開していきます。
これまでのみどりの実態調査では把握していない、重要な樹林地の質的状況、例えば、ナラ枯れ等の状況や土壌環境なども、重点的にモニタリングしたほうがいいのではないかな。市民と協働でモニタリングをすることで、活動のきっかけにもなるのではないかな。	これまでのみどりの実態調査は、主にみどりの数量等について調査を行ってきました。樹林地の状況等の調査については、今後も専門家などのご意見を伺いながら、項目や手法の検討を進めていきます。
事業化するにあたっては、より区民の皆さんにご理解していただくことが大事である。計画を周知することや計画をわかりやすく、共感してもらえらるるよう、表現を含めて検討してもらいたい。また事業を進めるにあたっては、頂いたアイデアを参考にし、内容によっては、計画へ記載してほしい。	中間見直しにあたっては、区民にわかりやすい表現への変更も行います。また、改定した計画については、広く区民へ周知していきます。いただいたご意見については、今後の事業において、参考にするとともに、総合計画への記載についても検討をします。
近年グリーンインフラ、グレーインフラという概念が出てきて、みどりの価値が変わってきた。気候変動やSDGsを施策の柱に出していかないかな。	環境基本計画において、地球温暖化対策という大きな枠組みにおけるみどり施策について位置付けています。
大木の更新、区や都への要請、農の風景は先進的な取組なので頑張してほしい。検討と記載されている取組について目指している方向性がわかりにくい。計画本体への最終的な記載レベルはどうなるのか。	緑化委員会で審議いただいているので、答申内容としては、方向性を端的にまとめています。計画の素案では具体的な内容も盛り込む記載とします。